

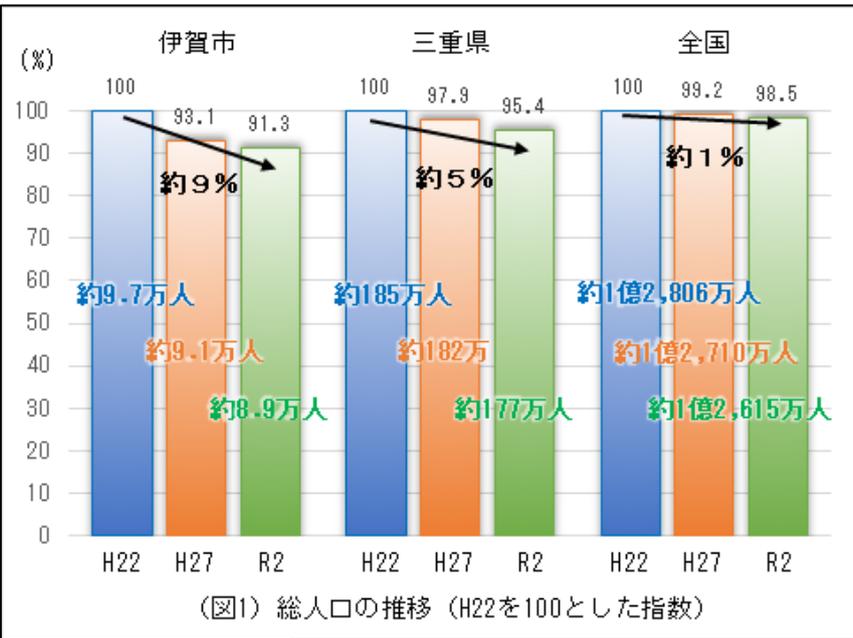
## 伊賀市の現況整理

### 1. 社会経済状況の変化

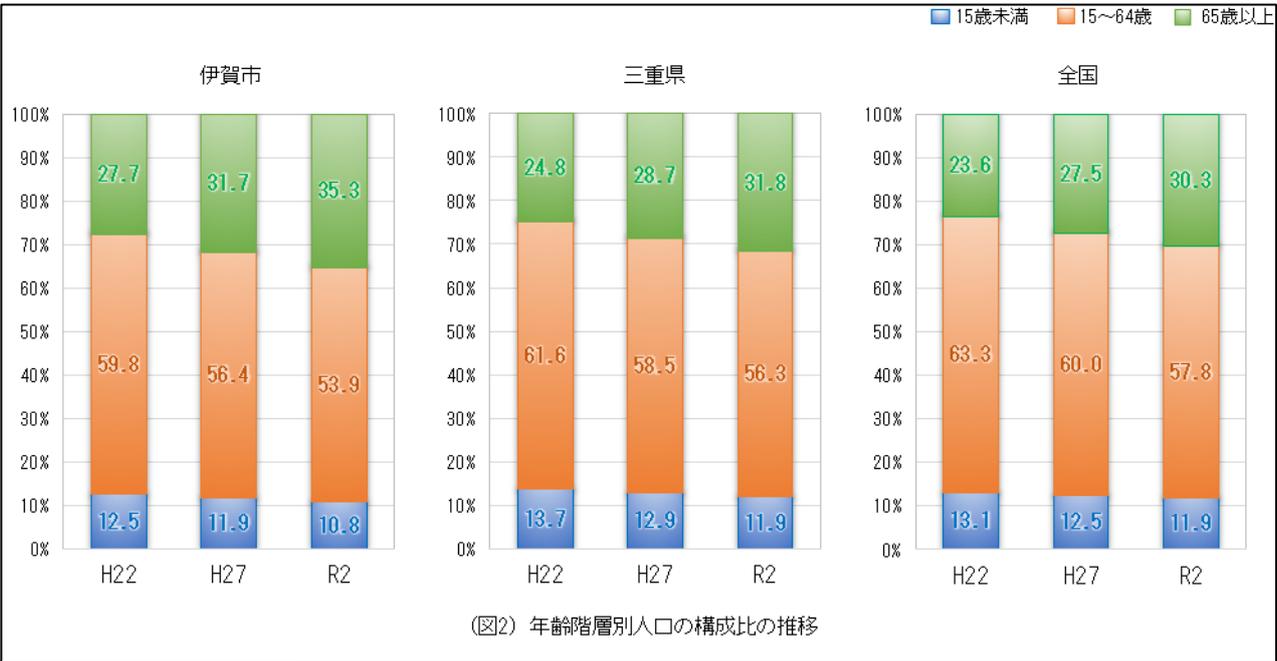
#### (1) 総人口

伊賀市の総人口は、平成22年の97,207人から令和2年の88,766人へと約9%減少しており、減少率は三重県（約5%）や全国（約1%）と比較して大きい。

伊賀市における年齢階層別人口構成比をみると、15～64歳の生産年齢人口が減少し、65歳以上の高齢人口が増加しており、全国的な人口の高齢化傾向と同様である。特に、令和2年の65歳以上の割合は約35.3%であり、三重県（31.8%）や全国（30.3%）よりも多い結果となっている。



出典：国勢調査

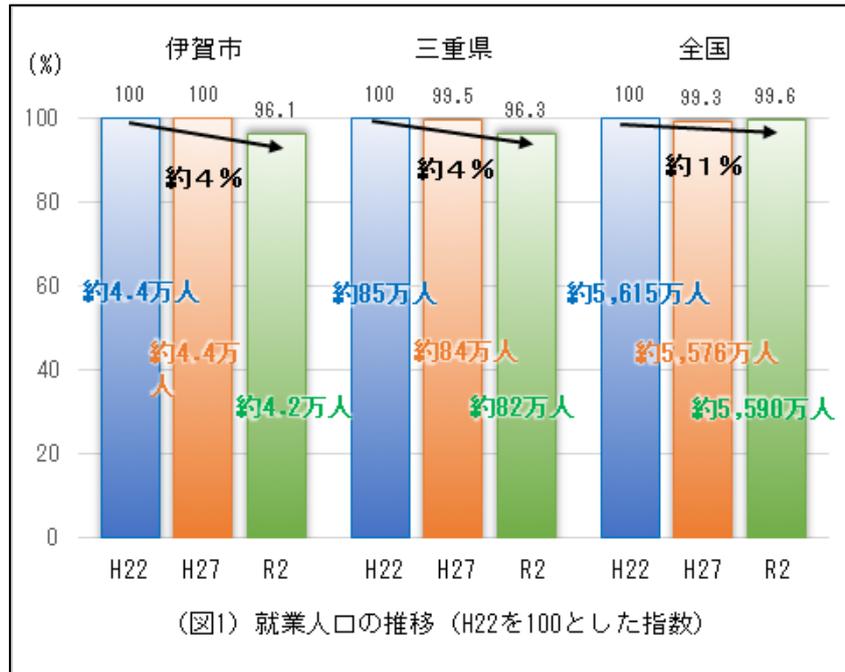


出典：国勢調査

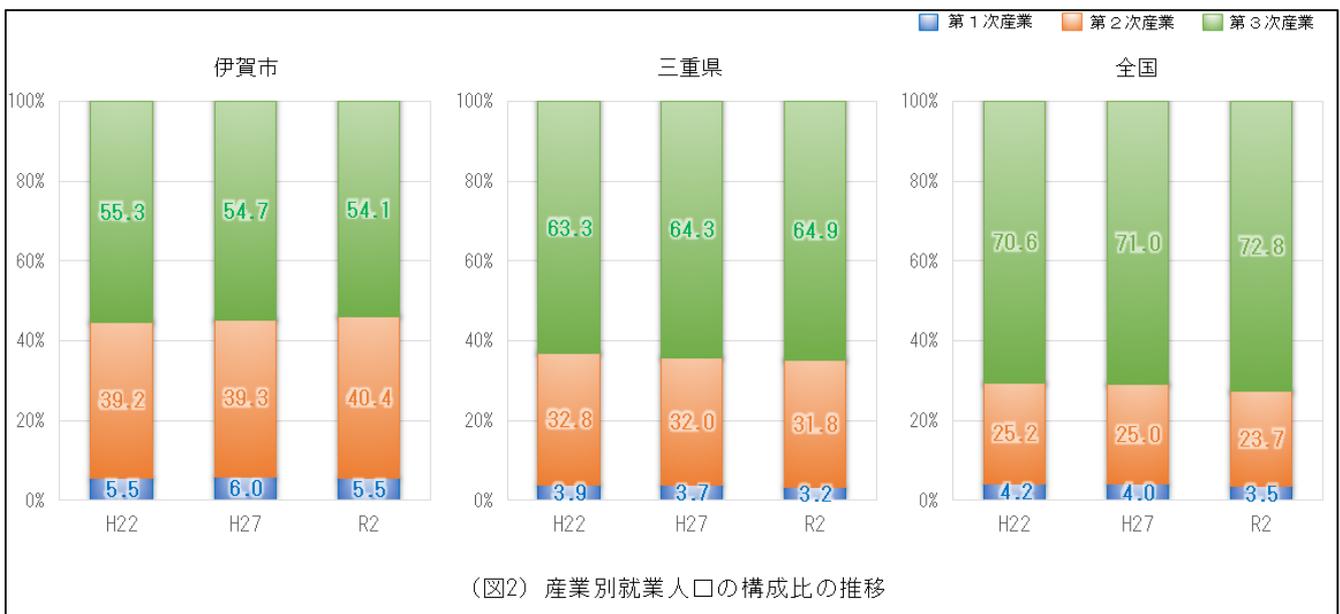
(2) 産業別就業人口

伊賀市の就業人口は、平成22年の43,826人から令和2年の42,098人へと約4%減少しており、三重県の減少率と同程度である。

産業別就業人口の構成比をみると、伊賀市の令和2年における第1次産業の就業人口の割合は5.5%となっており、三重県(3.2%)や全国(3.5%)と比較して割合が大きいことが分かる。



出典：国勢調査

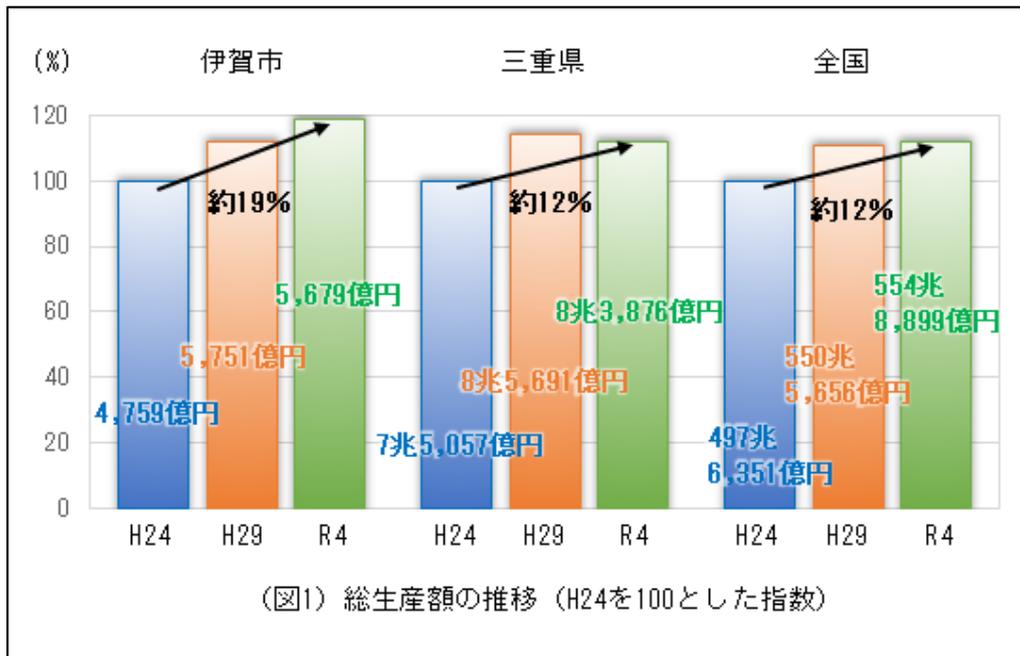


出典：国勢調査

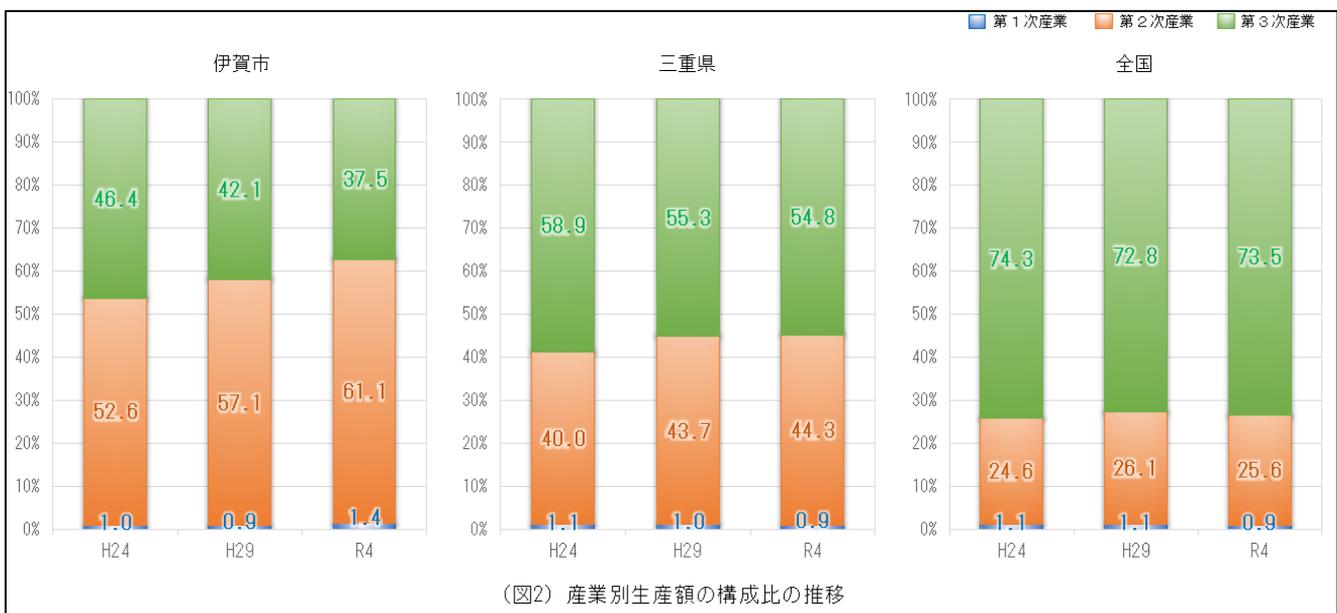
(3) 産業別生産額

伊賀市の産業総生産額は、平成24年の4,759億円から令和4年の5,679億円へと約19%増加しており、三重県（約12%）や全国（約12%）と比較して、増加率が大きいことが分かる。

また、産業別生産額の構成比をみると、伊賀市の令和4年における第1次産業生産額の割合は三重県や全国と同様であるが、第2次産業生産額が占める割合は約61.1%と、三重県（44.3%）や全国（25.6%）と比較しても高くなっている。



出典：三重県市町民経済計算、国民経済計算



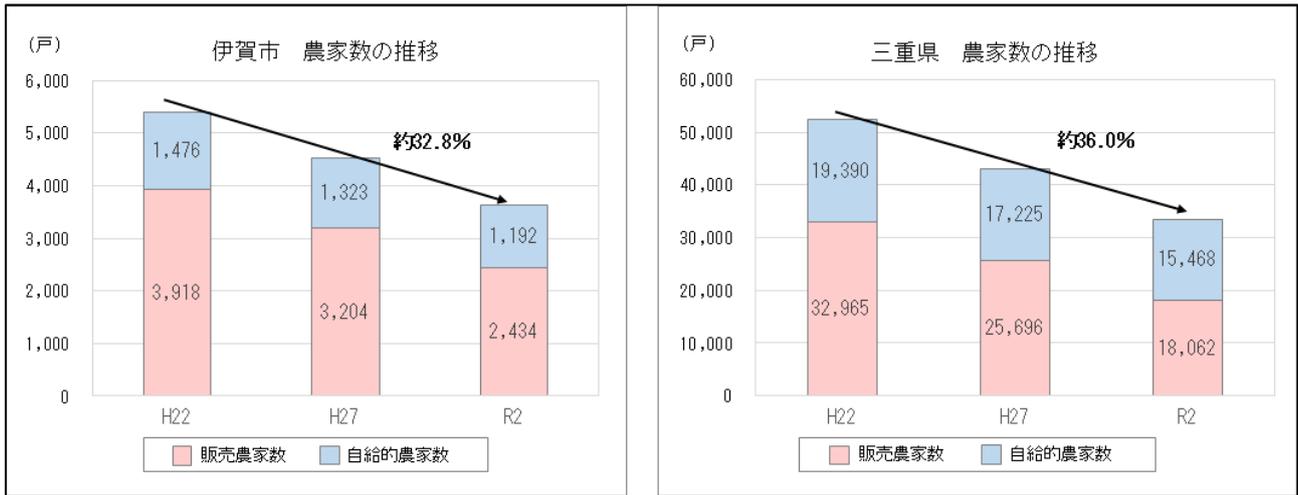
出典：三重県市町民経済計算、国民経済計算

## 2. 農業情勢等の変化

### (1) 農家数

伊賀市の令和2年の総農家数は3,626戸で、うち販売農家の割合は約67.1%である。総農家数は10年間で約32.8%減少しており、三重県における減少率(約36.0%)より小さい。

伊賀市における農家構成は販売農家が約70.2%(10年平均)を占めており、三重県(約58.9%)と比較しても、伊賀市の販売農家の割合が高いことが分かる。

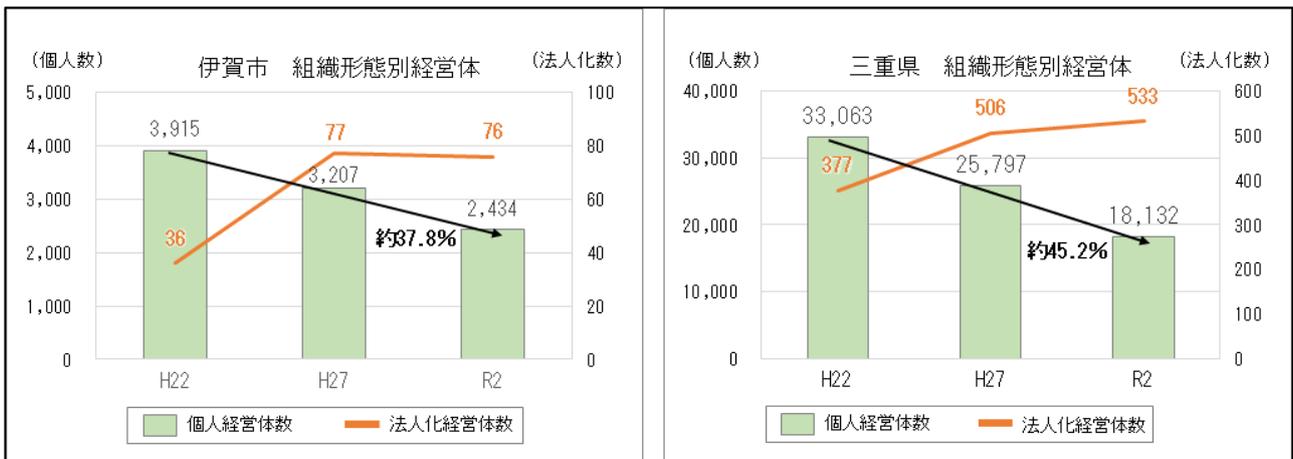


出典：農林業センサス

### (2) 農業経営体数

伊賀市における令和2年の個人経営体数は2,434経営体であり、平成22年と比べて約37.8%減少している。これは三重県における個人経営体数の減少率(約45.2%)よりも小さい結果となっている。

一方で、法人化経営体数は三重県・伊賀市ともに増加傾向にあり、伊賀市では平成22年(36経営体)から令和2年(76経営体)にかけて法人化経営体数が約2倍に増加した。



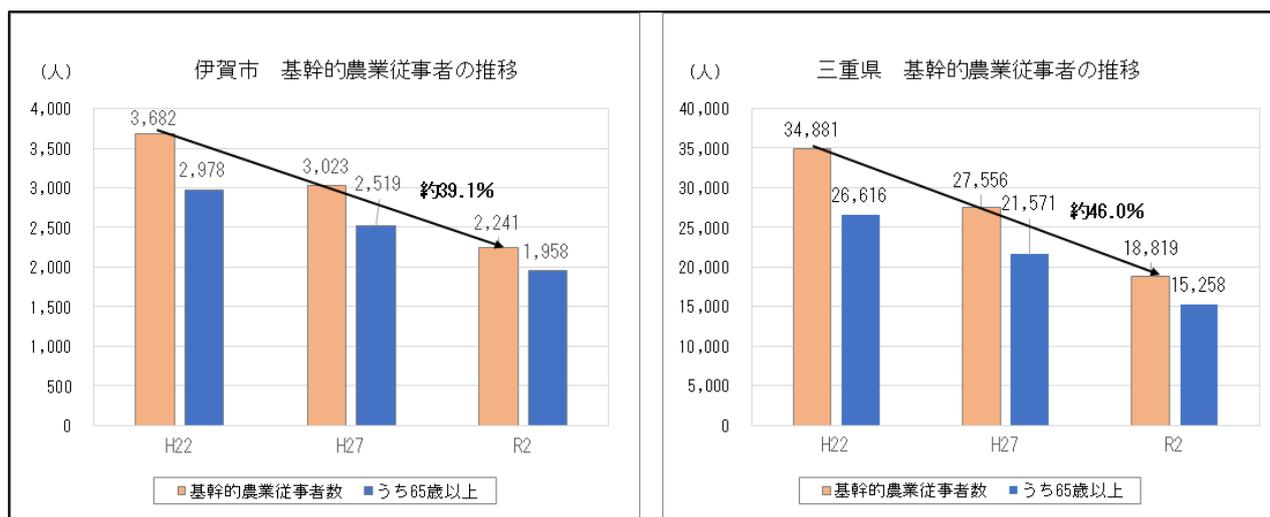
出典：農林業センサス

(注) 法人化経営体：農業経営体のうち、法人化して事業を行うもの

(農事組合法人、会社、各種団体(農協等)、その他法人(公益法人、NPO法人等))

(3) 基幹的農業従事者数

伊賀市における令和2年の基幹的農業従事者数は2,241人であり、うち65歳以上の割合が約87%となっている。三重県では令和2年の基幹的農業従事者数(18,819人)のうち、65歳以上の割合が約81%であるため、特に伊賀市において基幹的農業従事者の高齢化が進行していることが分かる。一方で減少率をみると、伊賀市の基幹的農業従事者数は平成22年の3,682人から令和2年の2,241人へと約39.1%減少しており、三重県(約46.0%減少)よりも小さい。



出典：農林業センサス

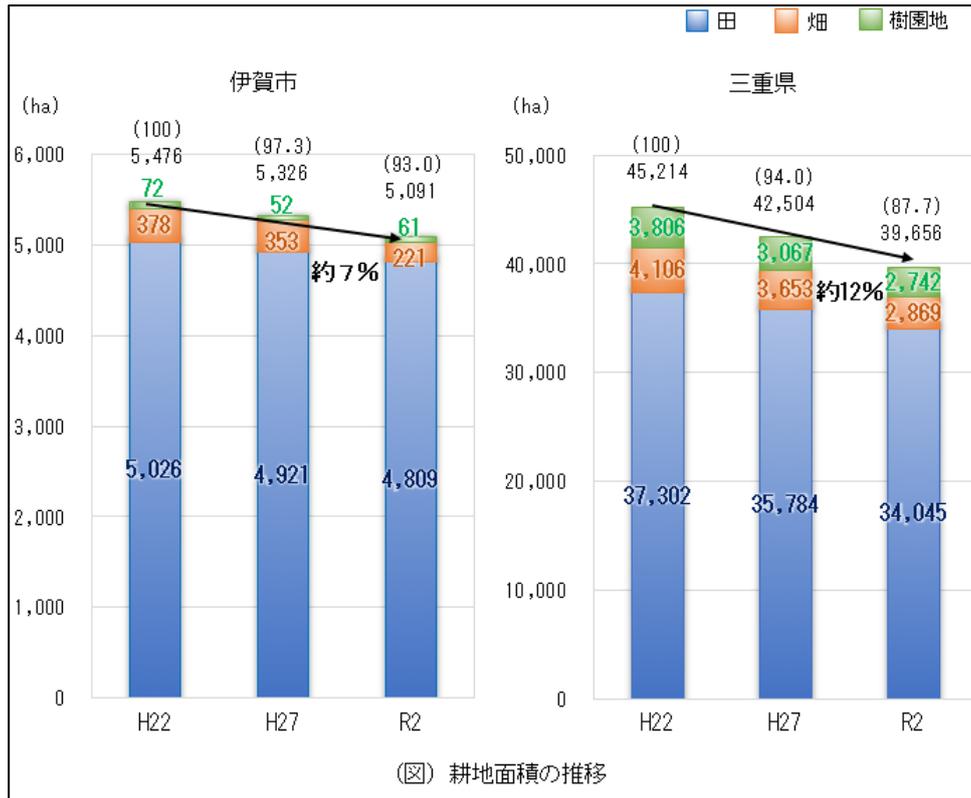
(注1) 基幹的農業従事者：世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者

(注2) H22及びH27は販売農家、R2は農業経営体の値

(4) 経営耕地面積

伊賀市の経営耕地面積は平成22年から令和2年にかけて約7%減少している。三重県全体の経営耕地面積の平成22年から令和2年における減少率は約12%となっており、伊賀市の経営耕地面積の減少率は比較的小さいことが分かる。

また、伊賀市の令和2年における経営耕地面積の構成比をみると、田の占める割合が約94.5%となっており、三重県の約85.9%と比較して、伊賀市では田の占める割合が大きい。



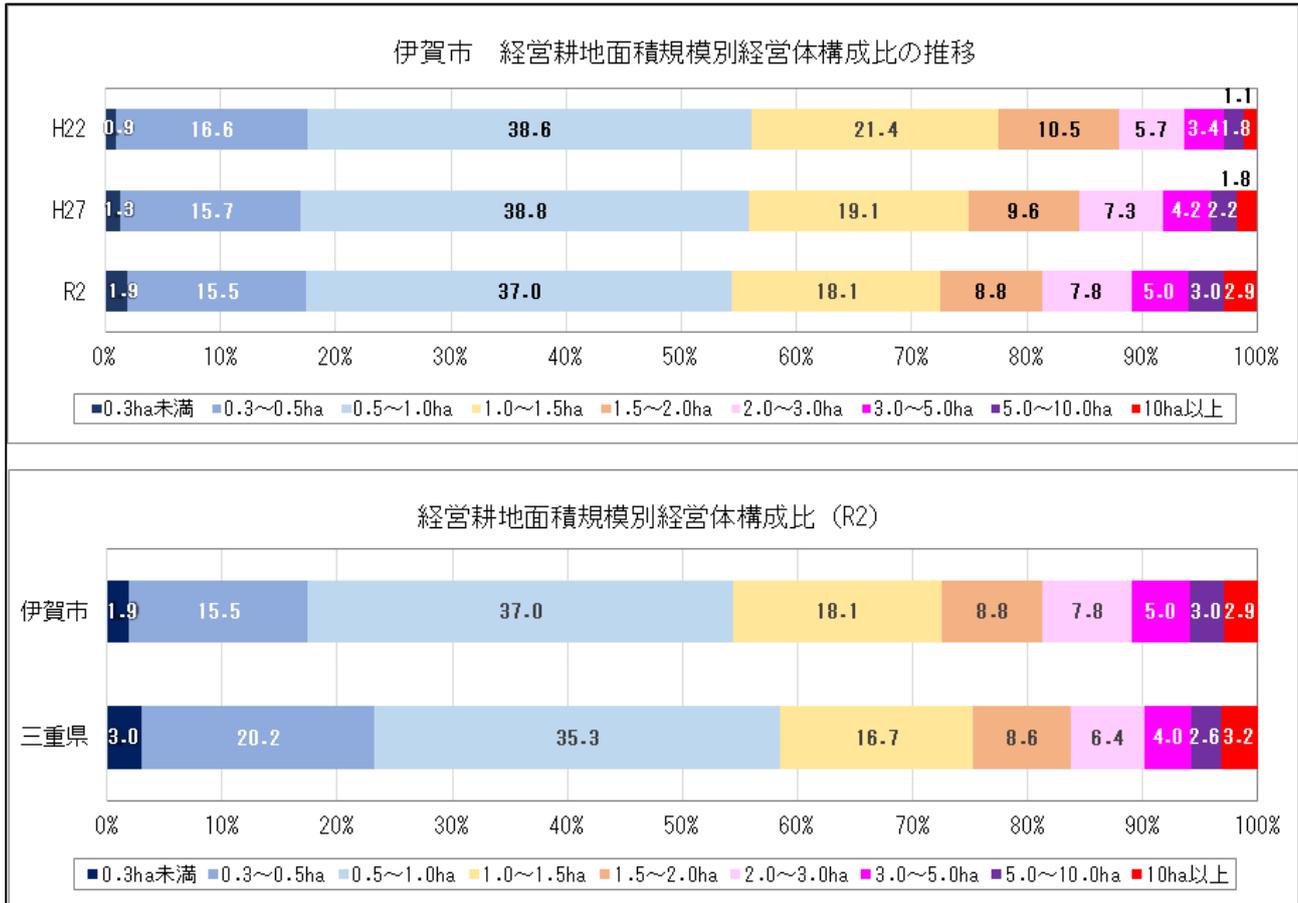
出典：農林業センサス

(注) 経営耕地：農業経営体が経営している耕地。面積は自作地と借入耕地の合計値

(5) 経営耕地面積規模別経営体構成比

伊賀市における経営耕地面積規模別経営体構成比の推移をみると、経営耕地面積0.3ha未満及び2.0ha以上の経営体割合は増加傾向にあるが、0.3～2.0haの経営体割合は減少傾向にある。

令和2年の伊賀市と三重県の構成比を比較すると、伊賀市では、経営耕地面積0.5ha未満の経営体の割合が三重県よりも小さい結果となっている。

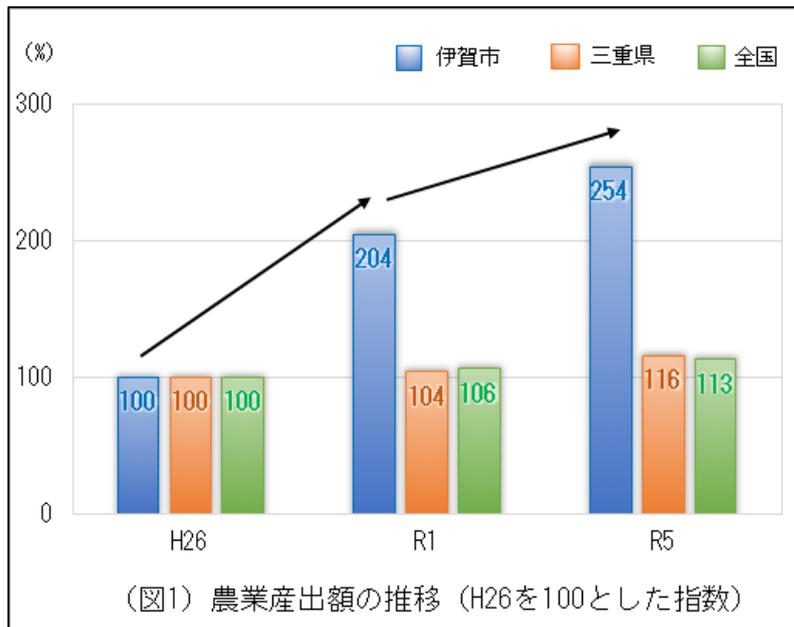


出典：農林業センサス

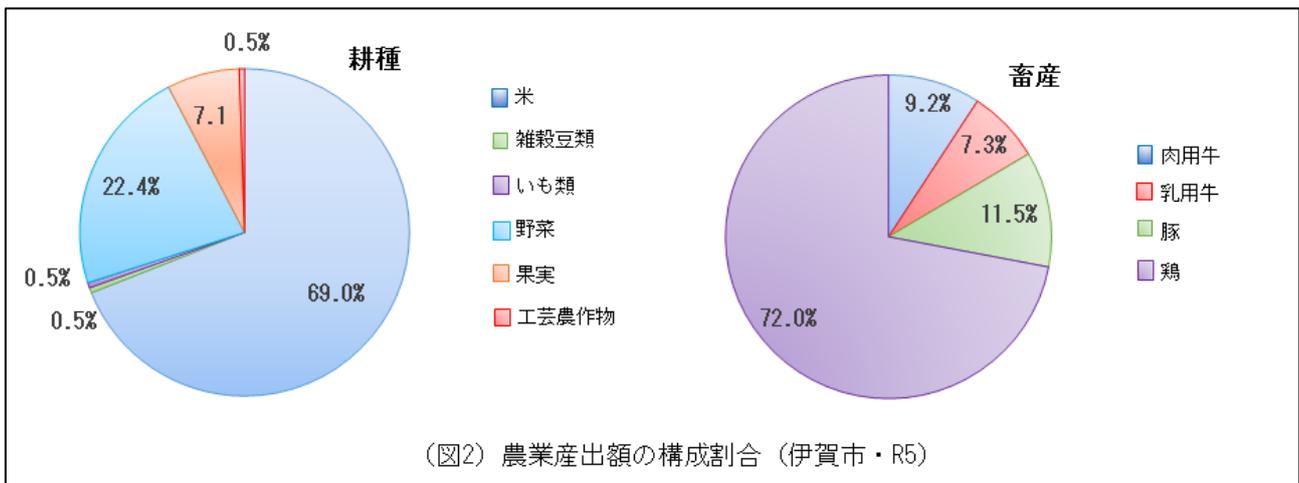
(6) 農業産出額

伊賀市における農業産出額は年々増加しており、三重県全体や全国と比べ、増加率が2倍以上多い結果となっている。農業産出額の内訳をみると、平成26年から令和元年にかけて、鶏の産出額が約8倍（約8億円から約61億円）に増加しており、この大幅な増加が結果として表れている。

令和2年の農業産出額の構成割合をみると、耕種では米が約69.0%であり、次いで野菜が約22.4%を占めている。畜産では鶏が約72.0%と最も多く、次に豚の11.5%、肉用牛9.2%、乳用牛7.3%という結果となっている。



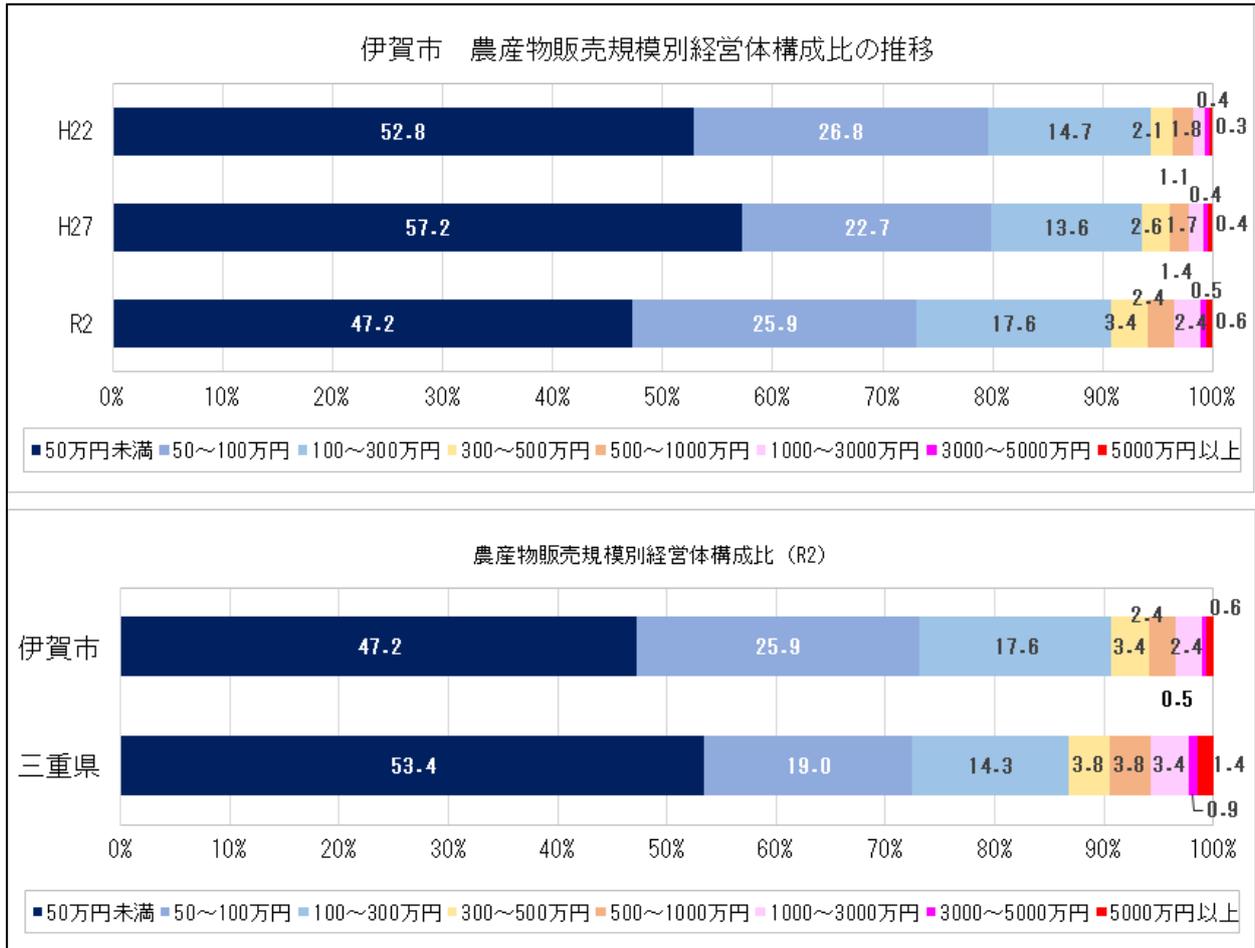
出典：市町村別農業産出額



出典：市町村別農業産出額

(7) 農産物販売規模別経営体構成比

伊賀市における農産物販売規模別経営体構成比の推移をみると、平成22年から令和2年にかけて販売金額100万円以下の経営体は減少しているものの、100万円以上の経営体は増加傾向にある。構成比では、100万円以下の経営体の割合が約73.1%を占めている一方で、300万円以上の経営体の割合は約9.3%である。三重県と比較すると、50万円未満と300万円以上の経営体割合が小さく、50～300万円の経営体割合が大きい。



出典：農林業センサス

(8) 農地の転用面積

伊賀市の農地転用面積は直近3年平均で34.7haであり、令和4年における三重県全体の転用面積の約14%を占めている。

農地の転用面積の推移をみると、三重県や全国は農地転用面積が年々減少しているのに対し、伊賀市では転用面積が微増傾向にある。



出典：農地の権利移動・借貸等調査